

# 「五街道の道しるべを巡り歩く」シリーズマップ

藤井寺市域及び周辺には、東高野街道・長尾街道・古市街道・巡礼街道・竹内街道と東西・南北に古くからの道が通っています。江戸時代にはこれらの街道を利用して、寺社参詣や商いなどで多くの人が行き交いました。移動されているものも多ありますが、街道の要所には、道標（道しるべ）が建てられています。藤井寺市域の街道沿いを中心に、道標（道しるべ）を探しながら散策してみませんか。

※マップ内の長1 長1 等のラベルは本文中の写真撮影地点の番号です。



### 30. 五街道の道しるべを巡り歩く その二 「長尾街道」

前回は東高野街道をご紹介しましたが、今回は東西に走る長尾街道です。

大阪府堺市堺区から東へ向かい、松原市、羽曳野市、藤井寺市、柏原市を通過して葛城市の長尾神社に至る約35kmの道です。長尾街道の名前の由来はこの長尾神社からつけられたと一般的に云われていますが、堺市の長尾町に由来とする説もあり定かではありません。

また、古代の河内には大津道・丹比道と称される道のあったことが「日本書紀」の壬申の乱の記述中にみえています。岸俊男氏によって、長尾街道は大津道、竹内街道は丹比道に遡ることが指摘されていますが、これについて異説もあり定かではありません。

松原市から、羽曳野市に入ると右手に「雄略天皇陵古墳」を見ながら東へと道は続きます。



河内名所図会



雄略天皇丹比高鷲原陵

長 1



・「河内名所図会」には周濠のある円墳として描かれています。旅人が行くのが長尾街道。現在は径75mの円墳と周濠を隔てた東方にある50mの平塚と併せ前方後円墳であるかのようになっています。

雄略天皇陵古墳を過ぎるとすぐに藤井寺市にはいり、暫く東進すると小山で平野から南下してきた古市街道（大坂街道）とT字型に交わり南へ折れます。ここから暫く古市街道と重複します。



時が経つと村の様子も様変わりします。古い家屋が無くなり空地になっています。



正面・西面	北面・左側面	南面・右側面	東面・裏面
右 ハ い せ 藤 道	慶応三卯天十二月吉	村内安	世 伊勢講 話 中 人 金毘羅講
井寺 明寺	日	全	長 2

① 長尾街道に古市街道が合流するT字路にある道標で、慶応3(1867)年12月に、地元の伊勢講と金毘羅講の人々により、村内安全を祈願して建立された。頭部に十字の溝が切っており、提灯などをこの上に設置したとも考えられる。伊勢参りを対象にしたもので、文字は雄大で彫りも深い。

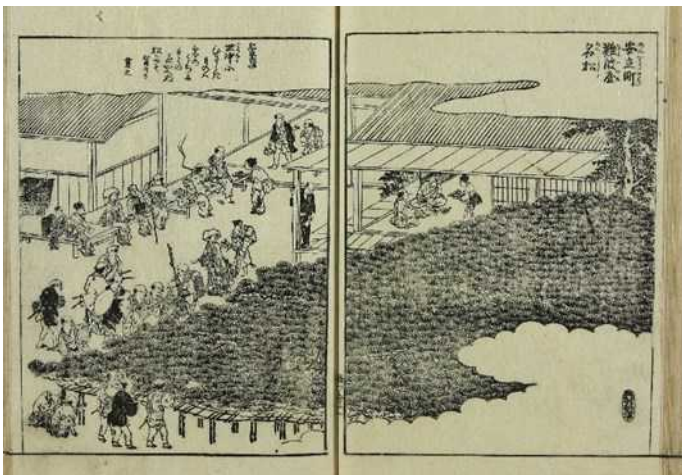
下部が土中に埋もれているが、伊勢とともに道明寺・葛井寺の案内もかねているらしい。造立時期からして、「ええじゃないか」の流行とかかわる可能性がある。北面「天」=「年」



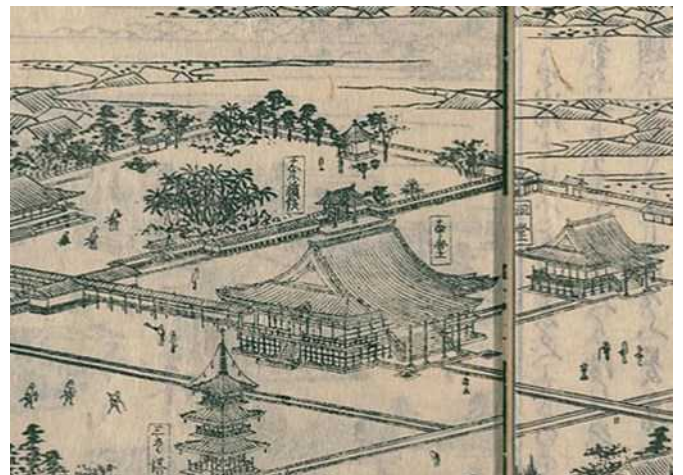
東面	南面	西面
右 大阪	左 なにはやかさ松 住吉大社 さかい 妙国寺そてつ	于時 文化◇◇年 三月
		長 2

道標①の向い、T字路の西北角に、堺の妙国寺のソテツなどの名所を刻んだ文化年間(1804~1818)銘の道標が立っていたが、車両事故で倒壊した後、所在不明となっています。

因みに、道標に銘記された「なにはやかさ松」・「妙国寺 ソテツ」とも摂津名所図会・和泉名所図会に描かれており、江戸後期に大坂南部方面を訪れる旅人は、住吉大社へ参拝し、安立難波屋の笠松を見て、そして妙国寺のソテツを見るというのが定番のコースであったとのこと。



攝津名所図会 寛政8(1796)年 かさ松



和泉名所図会 寛政8(1796)年 妙国寺(部分)

長尾街道はその前身が大津道であるということが通説として取り扱われていますが、現時点で確定した大津道のルートは有りません。古代の大津道は小山で右折せずさらに東に直進して、柏原市の国分で奈良街道に合流していたと考えられています。松原市内では発掘調査が進み、長尾街道の下に側溝芯々幅で約 18mにもおよぶ、難波大道にも匹敵するほどの古代道路遺跡が存在することが判明しており、「長尾古道」として取り扱っていますが、藤井寺市域では古代道路遺跡は見つかっておらず、推測の域を越えることはできません。



大津道を復原すると、藤井寺市小山一丁目で南に折れず、さらに東に真っ直ぐ延び、石川と（旧）大和川が合流する藤井寺市船橋付近まで達していたらしい。そして、渡河した地点、柏原市安堂付近で、南下してきた東高野街道と接続していたかと考えられる。

河内の古道（藤井寺市文化財第七号）抜粋

さて、南に向いた街道はすぐ岡にはいり、府道堺大和高田線を横断したのち、南下を続ける古市街道と分かれて東へ道をとります。岡の南端、古市街道との分岐点には元禄14（1701）年銘の角柱の道標が立てられていましたが、現在は藤井寺市役所南側に移築されています。

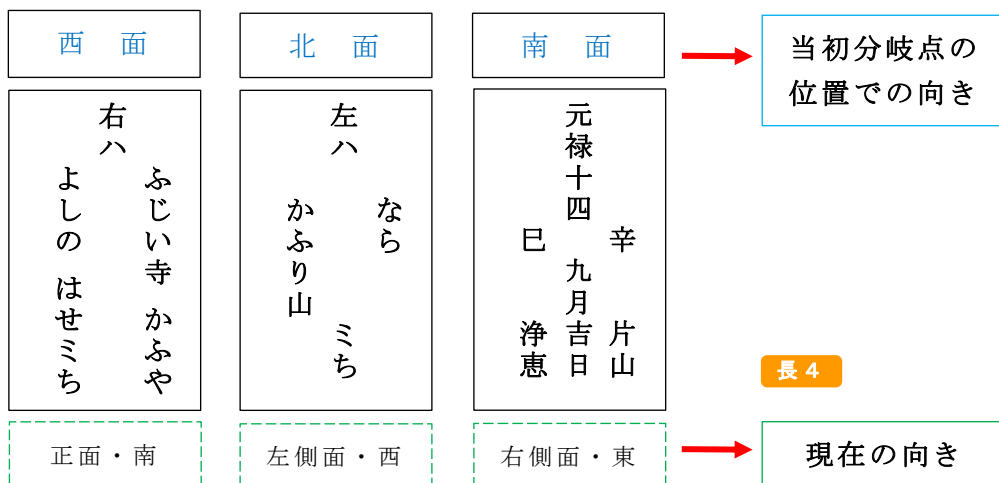


長尾街道と古市街道の分岐点（道標元の位置）

長 3



市役所南側に移築された道標。説明の石碑が横に立てられている。道標の向きは当初とは異なっている。 **長 4**



② 元禄14(1701)年のこの道標は、藤井寺市内で最古の道標です。元々ここから西へ200mほどの南東角(古市道との分岐点)にあったのを保存のため移築しています。長尾街道を進む道が奈良・郡山と大和盆地を示すのに対し、南下する道の行先に葛井寺・高野・吉野・長谷(初瀬)を記している。吉野・長谷へはこの先で竹内街道に合流し、高野は古市から東高野街道をとったものであろう。長尾街道が参詣道として多くの人々で賑わった往時が偲べれます。

古市街道と別れた長尾街道は東進し、西名阪自動車道の下で府道堺大和高田線と交差し、藤井寺ICで判りにくくなっているが少し斜めに進み、第三中学校・市立図書館の南を東進します。



西名阪自動車道高架の下で府道堺大和高田線と交差し、藤井寺ICを斜めに横切るように東へ進んでいる。 **長 5** **長 6**



長 7



長 8

国道170号線（外環状線）を横断して林に入る。道幅は車1台が通行できる程度の狭さとなります。長尾街道から北へ路地を少し入った所に「尊光寺」という浄土真宗の寺があるが、天誅組の大和拳兵に加わった幕末の歌人伴林光平の生誕地であり、門前に「歌碑」が立てられています。また、尊光寺から少し北に延喜式内社の「伴林氏神社」があります。



尊光寺

長 9



伴林氏神社

長 10

林から道明寺小学校北側の上り坂を上がり、旧170号線を渡ります。この交差点左側には「允恭天皇陵」の皇陵巡拝碑が立っています。



長 11

旧 170 号線を渡ると、右手に消防署の脇に細い路地があり、その分岐点に、石屋形の祠の中に祀られている地蔵尊があります。



北面・正面

東面・左側面

(地藏坐像)  
右 大坂 さかひ  
左 なら はせ  
道

左  
り  
ふ  
ぢ  
ゐ  
て  
ら  
道

長 1 2

③ 長尾街道沿い、柏羽藤消防組合消防署本部の裏手にある道標で、角柱の上部に舟形のくほみを造り、その中に、蓮華座に座す地蔵菩薩を浮彫りにし、下部と側面に文字を入れる。もとは長尾街道と東高野街道との交差点の北西角にあったという。

地蔵尊を過ぎると左手に「允恭天皇陵」の周濠と後円部が、右手に「唐櫃山古墳」が見えます。



允恭天皇陵



長 1 3

唐櫃山古墳石棺 (2016.08)

允恭天皇陵、唐櫃山古墳を過ぎると、東高野街道と交差します。



西 正 面
右 道 明 寺

④ 長尾街道と東高野街道との交差点東南角に残存している。道明寺方面の案内だけで、裏面及び両側面に刻銘は無い。 **長 1 4** (東高野街道前編と同じ物です)

ここから幅2～3mの狭い道となり、府道堺大和高田線の北側を並行して東へ進みます。

その先に石川の堤防が見えてきます。今は府道堺大和高田線が石川橋で渡河しますが、昔はどのような手段で渡河していたのでしょうか？



参考になるのは「狭山池掛かり村々絵図」に書かれている内容です。

**長 1 5**



**長 1 6**

狭山池掛かり村々絵図 天保7(1836)年 羽曳野市史ヨリ抜粋



東西走る長尾街道の東端には「石川筋」の渡し場があり、「舟渡七十五間」と記され、さらに「安宿部郡片山村へ移、和務亀瀬峠造一里十六丁程」と書かれている（赤の四角部分）。なお、石川の渡し場に関しては長尾街道の「舟渡」のほか、道明寺村の東方に「歩行渡」があった。羽曳野市史

と説明されていますので、架橋はされず「渡船」での渡河だったことが分かります。

では、石川に架橋されたのは何時だったのか。石川に橋が架設されたのは、明治6（1873）年で、木製の長さ86間（約156m）の規模でした。



明治41年則図

その後、昭和30（1955）年、府道堺大和高田線の開通時に現在の位置に架橋されています。



1948.09.01



1961.05.30



2021.02.10 Google Earth（北から）

長16

石川を渡って柏原市にはいると、府道堺大和高田線の北側に長尾街道の旧道から一旦府道と重なるが片山から玉手山丘陵を迂回する旧道が残っています。

今回の案内は石川で終了とします。

（2024.4 中村）